

広島大学と連携した防災・減災イベントを開催

広島大学防災・減災研究センター・畠センター長、坂田教授、気象予報士・塚原さんが
災害への備えの大切さを呼び掛ける

一般社団法人日本損害保険協会中国・四国支部(委員長：中村 一樹・三井住友海上火災保険株式会社 執行役員)では、10月26日(日)、広島市中区の広島大学東千田キャンパスにおいて、「みんなで学び実践しよう！防災・減災」をテーマに、防災関係者や地域住民、学生等約120人が参加した防災イベントを開催しました。

イベントでは、まず、「異常気象から身を守る」と題して、気象予報士で広島県「みんなで減災」推進大使の塚原美緒さんが、地球温暖化を原因とした異常気象によって、大雨の発生回数が増加して台風もより強化されることから、防災気象情報を活用して、命を守ってほしいと呼び掛けました。

次に、「災害時における液状化現象への対応」と題して、広島大学防災・減災研究センター長 畠 俊郎さんが、液状化現象が発生するメカニズムを説明したうえで、液状化現象が起こる可能性が高い地域や液状化現象から身を守る方法などについて解説しました。

最後に、「災害時人間行動～災害時の避難行動～」と題して、広島大学防災・減災研究センター 坂田 桐子さんが、災害時における意思決定モデルを説明したうえで、マイタイムラインの作成や真っ先に逃げたり効果的に呼び掛けたりする同調性バイアスを利用して避難を促すことが有効であるとの解説がありました。

参加者からは、自分が住んでいる地域の安全性や自宅を液状化現象から防ぐための対応策、呼び掛けても避難しない人への効果的な呼び掛け方などの質問が寄せられ、講師との活発な意見交換がなされました。

閉会挨拶では、当支部・中村委員長から、「そんぽ防災WEB」や「そんぽデジタル・マイ・タイムライン」をはじめとした当協会の防災の取組みについて、紹介がありました。

当支部では引き続き、大学関係者や行政、関係団体等と連携し、防災の取組みを推進してまいります。



気象予報士・塚原さんの講演



防災・減災研究センター長・畠さんの講演



中村委員長の閉会挨拶



会場の様子